カタール通信 ORYX
第７号　７月発行
文責 ドーハ日本人学校
榊原 範久

今回は「カタールの歴史」を紹介します。日本の歴史とは無縁のことが多く、聞き慣れない名前や部族名なども出てきて、少々退屈させますがご了承ください。

イスラムの国カタールの歴史

カタールの歴史と言っても、カタールという国として独立してから、まだ 40 年しかたっていません。そのためカタール建国前の歴史ということになります。現在カタールとなっているこの地にはたいへん古くから人が住み、生活していたことが分かっています。

（1）イスラム以前

英国やフランスなどが行った調査によって、紀元前カタール半島にも人が居住していたことが分かっています。カタールの西海岸にあるウム・アル・マの古墳からは 6000 年前頃のものと思われる手斧などが発見されています。 今から 5000 年前には人々は漁をして生活していたといわれ、3000 年前ぐらいに作られたお墓からは、東南アジアの影響を受けた陶器が発見されました。

（2）イスラムの到来

イスラムが生まれた 7 世紀、カタール半島及びその周辺地域を治めていたムンディール部族の首長アル・ムンディール・イブン・サウィ・アル・タミームは直ちにイスラムを受け入れました。それ以降、この土地に住む人々はイスラム教を信仰しています。

湾岸諸国が世界で注目されるようになったのは、16 世紀の初めポルトガル人がこの地域に進出した後のことです。その後 17 世紀にオランダ人がこの地域の支配権を強めましたが、まもなくイギリス人がオランダ人を追放してその後約 2 世紀半にわたって、この地域での力を確かなものにしました。そのため、カタールは欧米諸国の中ではイギリスの影響を強く受けている国だと言えます。そのこともあり、今でもカタールはアラビア語が公用語、続いて英語が第 2 公用語となっています。

（3）独立までの動き

現在のカタール人の先祖は、18 世紀後半にアラビア半島から移住してきたアラブ人であり、カタールの首長家であるサーニー家もタミーム部族の分家です。いろいろな部族が次々とカタールに進入し漁業、真珠採り、貿易を盛んに行いました。この人達が現在のカタール人の中心になっています。1868 年、サーニー家の首長ムハマンドがイギリスとの友好を約束しサーニー家の支配権が確立しました。

【アル・ズバラの砦】（カタール半島北西部　18 世紀後半）アル・ズバラは今の首長家であるサーニー家が真珠を求めて住み着いた場所です。サーニー家はここに要塞と大きな町を作りました。

その後オスマン・トルコの侵入がありましたが、1913 年のイギリス・トルコ協定でイギリスと条約を結びカタール国の自主権が認められました。この条約によりカタールはイギリス以外にはその領土をゆずらず、イギリスの同意なしに外国政府とどんな外交関係も結ばない約束をしました。イギリスはカタールを外国の攻撃から守ることを約束し、カタールはイギリスの保護下に入りました。

1968 年１月、イギリス政府が財政困難を理由に 1971 年までにスエズ運河以東から軍事的撤退を行うことを宣言しました。カタールを含む９つの湾岸首長国は連邦結成の努力を続けましたが、1971 年８月にバーレーンが単独独立宣言したのに続き、カタールも 1971 年９月３日に独立宣言をしました。

（４）独立後の動き

独立宣言をしたカタールはクーデターが相次ぎました。アハマド首長を中心に国づくりを始めましたが、首長の行政手腕に対する不信感が王族の間に広まり、1972 年２月 22 日にアハマド首長の従兄弟ハリーファ・ビン・ハマド・アル・サーニー氏が、首長の不在中にサーニー族の支持を取り付け、新しく首長に就任しました（無血クーデター)。その後国の規模に見合った国内重化学工業が一段落したことから、国内経済の多様化（中小企業育成および農業・漁業の発展）や天然ガス開発にも力を入れました。

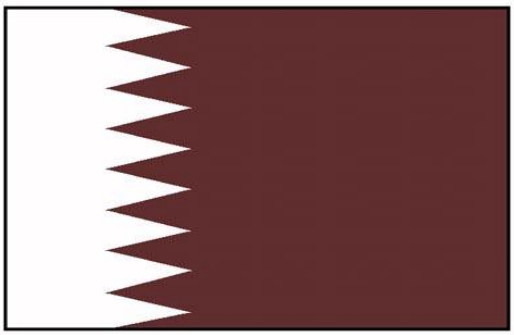
1992 年以降ハリーファ家の長男であるハマド皇太子（現首長）がハリーファ首長になり代わって政治を取り仕切るようになり、1995 年６月、ハリーファ首長の外遊中にハマド皇太子が政権を取り新首長に就任しました（無血クーデター)。ハマド首長は精力的にダイナミックな国造りを開始し、天然ガス開発、行政の合理化・民営化やカタール人雇用対策（カタリゼーション）を推進し、教育やスポーツに力を入れ、保険・医療の充実に努めています。また、青少年教育の充実を図ることがカタールの将来に大切であると考えたハマド首長は、「教育都市」を設立しアメリカの大学や教育機関を積極的に誘致しています。

上に出てきたカタリゼーションというのが特徴的で、つまりカタール人優遇政策です。どの外国系の企業であってもカタール人のスポンサーが必要だったり、一定数のカタール人を雇わなければならなかったりという内容です。カタール人を雇うには高い給与を払わなければならないし、働きが悪いからといって解雇することができないので、外国の企業からすると少々悩みの種であるそうです。カタール人からすれば、カタールで仕事をさせてあげているのだから当然という感じでしょうか。こカタリゼーションが功を奏して、ハマド首長はカタールで多くの人々に支持されています。

（５）最近の出来事

2006 年 12 月には第 15 回アジア競技大会が開催され、競技大会には過去最多の 39 競技、45 カ国と地域から約 12,000 人の選手が参加しました。2008 年 11 月には、アティーヤ副首相兼エネルギー・工業相が訪日し、2009 年５月には、タミーム・カタール国皇太子が訪日するなど、近年日・カタールの２国間関係が更に深まっています。

カタール国旗に込められた歴史的意味



カタールはカタールの旗は３分の２がえび茶色で残りが白色で９つのギザギザがあります。この二つの色の意味は、白は平和、えび茶色は戦争で流れた血、またはカタールとバーレーンとアラブ首長国連邦の７つの首長国の血がつながっているという意味があるそうです。９つのギザギザはカタールとバーレーンとアラブ首長国連邦の７首長国が仲間だという説があります。

カタールでは町のあちこちでこの国旗を見かけます。自分たちの国旗に誇りをもち、大切にしている雰囲気を感じます。

カタールの歴史をまとめてみて、やはりまだまだ若い国だと感じました。現在急成長中のカタールです。今後どんな成長を見せ、新たな歴史を築いていってくれるのか楽しみです。